

(1) 平成24年度 産業技術振興講演会 「蓄電池の基礎と応用」

当センターでは毎年、東北地域の産業・技術の振興に資するため、内外の最新政策、技術の動向等について、大学等の研究者、政府の政策担当者、先導的な企業の方による「産業技術振興講演会」を開催している。

今年度の1回目として、9月6日に秋田市において、秋田県、およびあきた新エネルギー研究会との共催で新エネルギー関連産業セミナー「蓄電池の基礎と応用」を開催し、新エネルギー関連産業への参入や事業拡大を検討中の企業の開発・製造への取り組み推進を促した。

当日は、秋田県産業技術センター所長 齋藤昭則氏、東北活性化研究センター専務理事 小泉司の挨拶の後、3名の講師が講演を行った。

企業、大学、行政等から約100名の参加者があり、熱心に聴講していた。

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| ・産業技術振興講演会： | 「新エネルギー関連セミナー：蓄電池の基礎と応用」 |
| ・日時： | 平成24年9月6日(木) 13:30～17:00 |
| ・会場： | 秋田県産業技術センター 講堂
(秋田市新屋町字砂奴寄 4-11) |

○ 講演 1

「蓄電池基礎（二次電池の基礎）について」

株式会社M&Gエコバッテリー 代表取締役 松本 功氏

電池の種類には一次電池、二次電池があり、電池技術の向上（性能・充放電ノウハウ）は次世代自動車や自然エネルギー貯蔵技術、情報通信社会システムまで、幅広いビジネスに派生する可能性をもっている。

今回は次世代自動車やスマートグリッド向けに飛躍的な拡大が見込まれる二次電池の基礎について説明された。1990年代に開発され、現在開発の主流となっているニッケル・水素電池、リチウム系二次電池のほか、自然淘汰された電池、生き残った電池など、様々な電池についてその特徴等の説明があった。

また、今後の動向について、二次電池のあらたな大口需要先として、次世代自動車用途と電力貯蔵用途が急拡大するとの予想とともに、電極材料（安定、高効率充電）や電池（高電圧、高容量、長寿命、高信頼性）に関する技術戦略、市場トレンド、電池材料の資源問題などについて説明があった。

○講演 2

「スマートコミュニティにおける蓄電池の役割について」

三菱電機株式会社営業本部 戦略事業開発室

スマートコミュニティプロジェクト グループ事業開発担当部長 鈴木 波平氏

低炭素社会実現に向けた取り組み、スマートグリッド・スマートコミュニティの概念、および各地域での実証実験内容について紹介があった。

スマートグリッドについての必要性として、低炭素社会の進展にともない太陽光発電システム等が需要家側の発電設備として大幅に増加するが、再生可能エネルギーの発電量が変動するため、その影響を回避する技術が必要となることが説明された。その方法として、電気自動車や蓄電池を利用した電力利用の最適化と、電力供給側／需要家側の連携によるエネルギー利用の最適化について説明があった。

また、各地でおこなわれている実証試験の取り組み（尼崎地区、和歌山地区、大船地区、青森県八戸市、岩手県平泉等）についても報告があった。

○講演 3

「東北地域の蓄電池産業について」

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

環境・エネルギー部主任研究員 清水 孝太郎氏

電池産業は「素材生産（電池原材料の生産）」、「電池製造装置生産」、「電池組み立て（モジュール化）」、「最終製品生産（電池組み込み＝電池の需要家）」、「リユース・リサイクル」なども含めて電池産業と考えられる。

現在は二次電池組み立てメーカーの生産拠点は関西地方に集中している特徴がある。これは歴史ある電池組み立てメーカーの多くが関西地方に本社を構えているためであるが、今後は自動車メーカーへの供給が増加するとみられるため、自動車メーカー近くに生産拠点を構えることが考えられ、東北地域にも参入の可能性がある。



会場全体